

編集委員会報告

2024 年度投稿分（2025 年発行 Vol.5）について

(1) 委員の委嘱

委員長 中坪史典

(2) 査読者の委嘱

委員長をはじめ、学会内外で以下の方々に査読協力を依頼いたしました。※敬称略

金井智恵子（和洋女子大学）、木村拓磨（東海学園大学）、倉盛美穂子（日本女子体育大学）、齋藤正典（相模女子大学）、東都ガーボル（相模女子大学）、二宮祐子（文教大学）、矢藤誠慈郎（和洋女子大学）

学会誌発行状況 第 5 巻まで発行済（2025 年 3 月現在）

(3) 投稿数・採択数・採択率

年	2024 年（令和 6 年度）		
	投稿数（稿）	採択数（稿）	採択率（%）
原著	5	2	40
総説	—	—	—
事例（実践）報告	1	1	100
紹介・調査	—	—	—
その他	—	—	—
合計	6	3	50

(4) 編集委員会講評

[原著]

著者・所属	タイトル
太田研（山梨県立大学）、貞松成（AIAIグループ株式会社）	保育者が認識する子どもとの関係構築におけるマルトリートメントのリスクと予防要因
〔講評〕 実践上の課題に係る時宜に適った問題設定であり、問いに対する調査の手続きも適切である。また、質的データ分析も丁寧に行われており、分析の結果は問題に対して一定の示唆を導き出している。	
著者・所属	タイトル
井梅由美子・藤後悦子・大橋恵（東京未来大学）、三好真人（常葉大学）	特別な支援が必要な子どものスポーツの習い事参加に関する母親の体験
〔講評〕 この論文は、発達障害児のスポーツ参加の困難さを母親の視点から質的に分析し、指導者の関わりや受け入れ体制の重要性を示している。具体的な事例を用いた実践的示唆があり、政策的意義も高い。	

[事例報告]

著者・所属	タイトル
森田裕之（中国短期大学）、大野倫由（ノーリフトリハ研究会）	分業介助で入浴介助を行う際に求められるマネジメント 分業介助が持つ時間を短縮するための条件から
〔講評〕 これまで検討されることの少なかった入浴介助について実証的な検討した点は評価される。ただし、ロールプレイ実験に参加した介助者が2名に留まっており、実験結果がこの2名の介護技術に左右される点が大いものと懸念される。つまり、計測された数値の信頼性が十分に担保されていないことから、事例報告であれば採録可と判定した。	